

平成31年 3月 15日

足立区立栗島小学校
学校長 八木 雅治 様

足立区立栗島小学校 開かれた学校づくり協議会
会 長 青 木 慎 治

平成30年度 学校関係者評価書

はじめに

本年は栗島小学校創立65周年にあたり様々な周年事業を実施し、学校と地域、児童・教職員、PTAが三位一体として取り組んできました。運動会や学芸会、マロンフェスタなどのPTA行事でも65歳の栗島小学校をお祝いすることで、学校への愛着形成を育むことができたと思います。

今年度は八木校長先生を向かえ、新たな学校経営に着手したことで、短期的に変化したこと、長期的な視野で取り組んでいること、課題はあるものの、着実に対応しているものなど、開かれた学校づくり協議会の場で情報共有しております。

1年間で急激な学力向上は見られずとも、日々の積み重ねを大切にして教職員一丸となり八木校長先生の経営マインドを継続していかれることを支援してまいります。

平成30年度の評価として

- 1 魅力ある授業の実現のため研究授業を8回実施できた
- 2 サマースクール15回と全体で学習できる場を15日間実施
- 3 新たにMIMアセスメントトレーニング実施による補習指導

を評価する一方で、

- 1 4月の学力調査での通過率が78.3%と下がったこと
- 2 外国語活動の授業では英語アドバイザーに頼り、担任主導が欠けていること
- 3 児童の学習の習得状況の二極化についての差を埋める方策

などの、課題も見られています。

教員の「働き方改革」が叫ばれる時代であり、まして、新年度も新規採用教員を迎えるのは必須であり、質の高い指導を実現するための人材育成を継続するようお願いします。教員のやる気と元気は、児童たちの育ちに影響を与えるため、授業の指導方法やベテラン教員から知見を伝承するなど、教員の抱える課題を共有し、学校組織全体で課題解決に臨む組織力の向上を期待します。

1. 自己評価書全般について

平成30年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

1 基礎学力の確実な定着 協議会評価△ (自己評価△)

学校側の自己評価は△でした。4年続いた上昇から、目標の80%を下回り78.3%となった結果と思います。これは、保護者アンケートの「学校は、楽しく分かりやすい授業の実現に努めている」の問いや「学校は、学習につまずきのある児童の補習に努めている」について昨年度よりも高学年の評価が極端に下がっています。家庭でも子どもたちの学習結果を認識しており、これが全体の通過率を下げていると考えられます。

次年度に向け、より充実したクラス運営と一人ひとりの課題に寄り添った対応を望みます。

2 体力向上 協議会評価△ (自己評価△)

1. 投げる力の向上○
2. 持久力の向上△
3. 跳躍力の向上△

昨年は泳力の向上を目指していましたが、今年は投てきを指標としています。いずれにしても体幹を鍛えることが体力の向上につながりますので、日頃からバランスよく体を使い、教員も児童と共に活動するなどして基礎体力の向上に努めてください。

3 健全育成の推進 協議会評価○ (自己評価○)

「学校が楽しいか」の肯定的回答率が、昨年と同じ92.2%と区平均を+1.6ポイント上回りました。学校が楽しいことは、授業への姿勢や友だち関係にも影響するので喜ばしいことと思います。今後も家庭訪問や保護者会などを通じて学校と家庭の連携を進めてください。

登校渋りが1名と、これも昨年と同じ状況にありますが、同一人なのかどうか、対応が遅れて家庭や児童とのギャップが深まらないよう区関係機関とも連携して対応してください。

あいさつや給食など生活に関係することから、協調性や食への関心を高め、健全育成への効果を期待します。

4 学校組織の運営改善 協議会評価○ (自己評価○)

効率的な組織運営の定着について、「必要最小限の実施とした」と結果に記載がある。「働き方改革」や「やりがい改革」について効率的でありながらも、時短だけを意識するだけでなく、必要としている児童には、時間をかけ指導をしていた

だきたい。やはり、無駄を廃し、メリハリをつけた時間管理が求められています。クラス数が減り、教員数も減ってきています。個の責任に頼るところもあるでしょうが、職層に応じた責任と係りの機動力を発揮して組織運営にあたってください。

2. 学校活動全般について

自己評価では

学校全体としては、知・徳・体の育む力とバランスは向上している。しかし、学年・学級によって差異や課題の違いが見られる。職員はおおむねチームワークを大切にし、児童の育成に当たっているが、指導力に差が見られるのも事実である。個々の教員の指導力を高めることはもちろん、組織を生かし、同じベクトルでチームワーク（共通実践）を重視した指導の徹底を図っていく。

と記載しています。

昨年から継続した

- 1) 「分かる授業」を目指した授業改善を一層進める
- 2) 教員の指導力の差の解消に努める
- 3) 本校協議会との情報の共有を密にして、課題に取り組む体制を継続する

この3点を目標として学校と協議会一丸となり学校運営を図ってまいりましょう。

3. 平成30年度の総括について

八木校長先生の1年が終了し、八木校長先生の思いを反映した学校経営となったのか。これからも継続して保護者に選ばれ続ける学校となっていくのか。

短期間では結果は見えてこないなので、経過を見守っていきたいと考えます。

そして、4月以降に掲げる教育目標

『かしこく やさしく しなやかな栗島の子』

の実践のため、児童の「自己肯定感」や「自校肯定感」をさらに伸ばしていただき、目指す児童像である『くじけない心・りりしい姿・しんけんな態度・まなびあう仲間』の実現に向け、本協議会も学校への協力を継続していきます。